

編集後記

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4853

編集後記

今年も昨年に続き新型コロナウイルスに振り回された一年だった。われわれはこの二年の間に何を学んだのだろう。大学教育は、対面授業からリモート授業に取って代わられた。一年目の昨年度は、この環境に慣れることで精いっぱいだったが、二年目である今年度は果たして進歩が見られたのだろうか。

これは小中高も同じ状況だが、GIGAスクール構想にとっては大きな進歩に見える。学問の自由を標榜する大学では、本来自由度の高い授業展開があたりとなり、さまざまな授業形態が乱立し、学生にとってある意味迷惑な状況に陥っているのではないか。

ゼミや実験実習は従来のリアルタイム形式の対面授業が行われ、講義科目については、LMS（授業用掲示板システム）を中核としたオンデマンド形式のリモート授業が用いられている。オンデマンド形式とは時間にとらわれない授業形態であり、学生が都合の良いときに自宅でパソコンを使って確認し、勉強できる形式である。

一見、うまく整理され、勉強がはかどるように見えるが、果たしてどうだろう。大きな問題点としては、同時双方向のリモート授業がほとんど行なわれていないことだ。すなわち、教師が直接口頭で語りかける講義がないのである。これでは学生のイメージする大学の授業と違うのではないだろうか。掲示板に示された課題を仕上げて掲示板に提出する。多少の説明動画が付いていればそれでよし、という授業で本当によいのだろうか。

最終目標が、同時双方向、ハイブリッド、ハイフレックスといった、対面授業とリモート授業を同時に行なうような授業であることに間違いはなく、私はこの方式を目標として授業を行なっているが、実のところ、パソコンの画面越しに講義するというのが苦手の教員が多いのである。三年目の課題である。

本号には、昨年ご定年を迎え名誉教授となられた中周子先生、奈良崎英穂准教授、国文学科卒業生で本学非常勤講師の樋口尊子先生にご投稿いただいた。奈良崎先生は筆名の「あせごのまん」と併せ、一論文、一創作作品の大活躍である。

（国文学科長 田原広史）